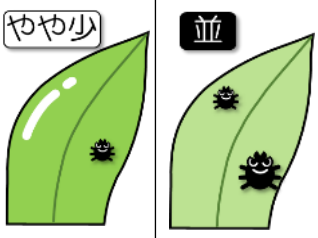
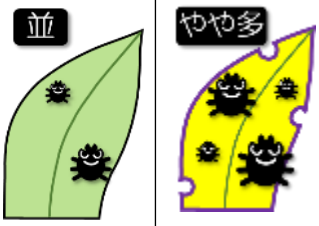
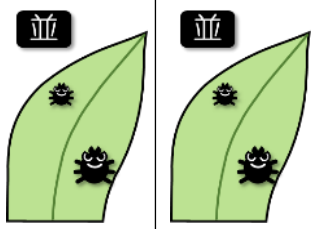
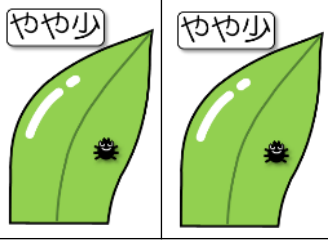
令和７年度　広島県病害虫発生予察情報　予報第９号（水稲）

令和7年８月28日発表（対象期間：令和7年８月下旬～９月上旬）

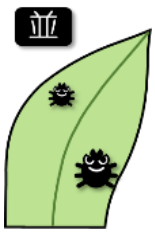
1-（1）　水稲病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名	現況 → 予報	防除上の注意事項
穂いもち (中生)	 （葉いもち）	・出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
紋枯病		・夏季の高温により進み、発病が増加するので注意が必要です。 ・昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上になった時です。 ・防除適期は穂ばらみ期～出穂期です。
トビイロウンカ	 （発生なし）	・中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 ・トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 ・要防除水準：飛来後第２世代幼虫５頭/株以上
コブノメイガ (中生)		・出穂した稲へ産卵はしません。
斑点米カメムシ類	**令和7年７月25日発表の「令和7年度病害虫発生予察情報 注意報第1号」を参考にしてください。**	

水稲病害虫の現況と予報（詳細）

①　穂いもち（中生）

現況 ⇒ 予報

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●８月下旬巡回調査では，葉いもちの発生地点率が11.1%（平年31.7 %）で、発生程度は1.04（平年1.08）で、それぞれ過去10年３番目と５番目に少ないです（－）。 また、穂いもちの発生地点率は0%（平年値3.43）です。（－） ●中国地方１か月予報では、気温が平年より高いです。また、出穂前後の降雨により、穂いもちの発生を助長します（＋）。	（葉いもち）	

【防除上の注意事項】

●出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。

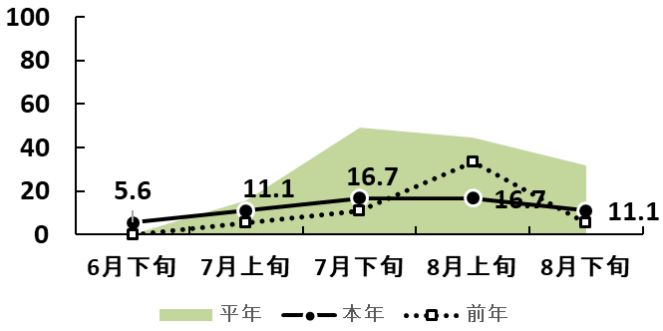
●葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の７～10日後に追加防除を行いましょう。

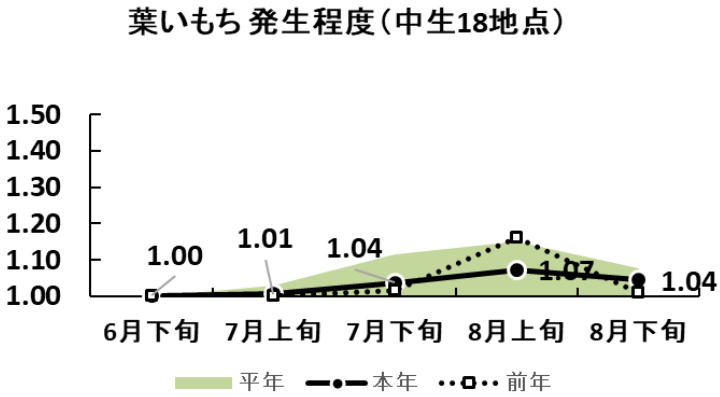
●以下の「ひろしま病害虫情報　病害虫図鑑（普通作物）」もご覧下さい。

「病害虫図鑑（普通作物）」
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html

【巡回調査データ（葉いもち）】

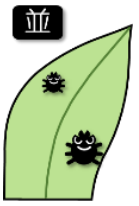




穂いもち

穂首部分（拡大）

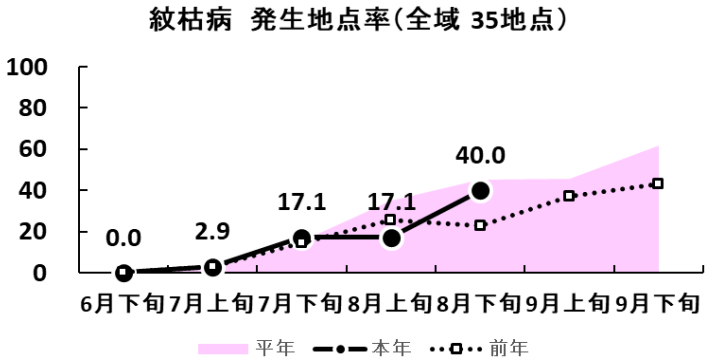
② 紋枯病

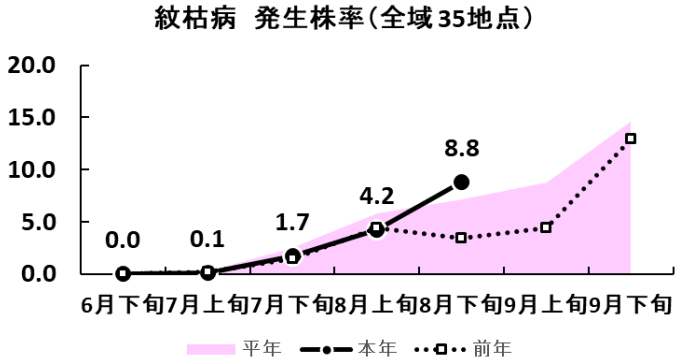
予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●８月下旬巡回調査では、発生地点率は40.0%（平年44.9%）、発生株率は8.8%（平年7.2%）で平年並みの発生です（±）。 ●中国地方１か月予報では、気温が平年より高いです。また、降雨により紋枯病の発生を助長します（＋）。		

【防除上の注意事項】

●高温、多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や曇雨天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。
●昨年発生が多かったほ場は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
●薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期です。
　薬剤は、病斑のある葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。
●要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上。

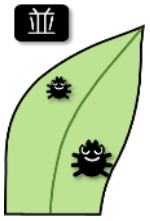
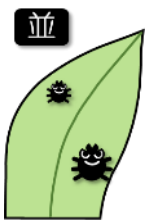
【巡回調査データ】





紋枯病の病斑

③ トビイロウンカ

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●８月下旬巡回調査では確認されませんでした（－）。 ●予察灯（呉市）で、7/7雌成虫１頭、8/11に雄成虫1頭確認されました。 ●予察田（呉市）、予察灯（東広島市）では確認されていません（－）。 ●中国地方１か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（－）。	 （発生なし）	

【防除上の注意事項】

●中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。

●トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。

●要防除水準：飛来後第２世代幼虫５頭/株以上
　飛来後第２世代幼虫期は９月上旬です。

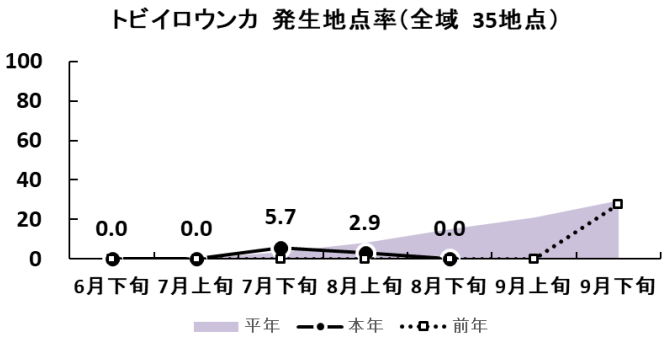
●ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧下さい。

長翅型成虫

短翅型成虫

中老齢幼虫

【巡回調査データ】



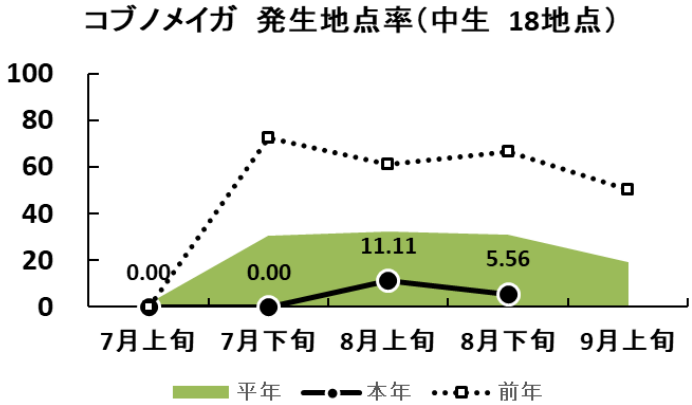
④コブノメイガ（中生）

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●８月下旬巡回調査では、発生地点率5.6%（平年30.8%）で過去10年で３番目に低くなっています（－）。 ●中国地方１か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（＋）。		

成虫

被害葉

【巡回調査データ】



⑤ 斑点米カメムシ類

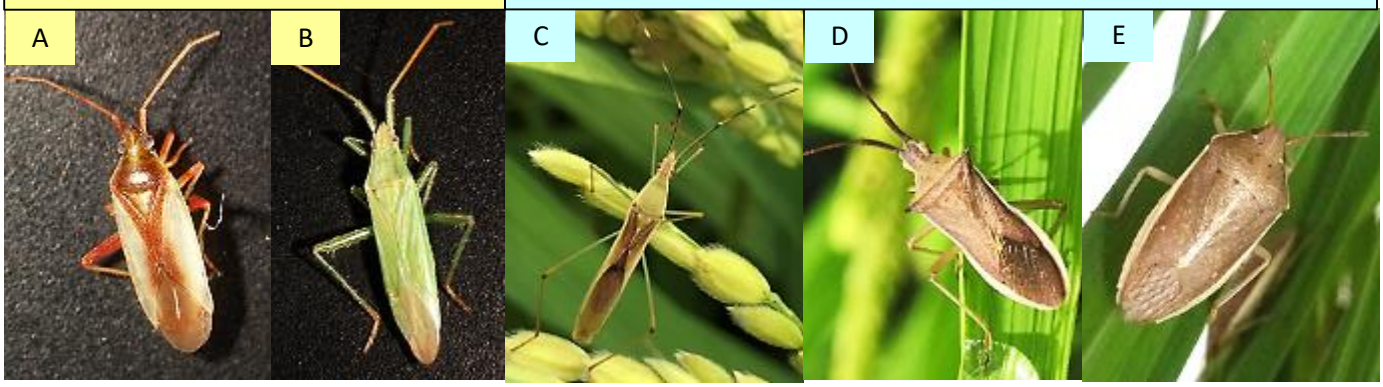
現況

●８月下旬の本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は34.0%（50地点中17地点）です。平均すくい取り虫数はカスミカメ類1.1頭（前年2.4頭）大型カメムシ類で1.3頭（前年2.2頭）です（表）。
●イネカメムシの８月第５半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は33頭（平年64.7頭）です。
●中国地方１か月予報では、気温が高く、増殖に好適です。

【防除上の注意事項】

令和7年７月25日発表の「令和7年度病害虫発生予察情報 注意報第1号」を参考にしてください。

カスミカメ類　　その他加害種



A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ、E：イネカメムシ

表．　8月下旬の本田すくい取り虫数（頭）

地帯	区分	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	平均
南部平均値	ｶｽﾐｶﾒ類	1.3	0.3	0	0.0	0.3	0.2
	その他加害種	1.7	2.1	0	0.0	20.3	5.6
中東部平均値	ｶｽﾐｶﾒ類	0.5	3.0	1.0	3.5	0.2	1.9
	その他加害種	2.3	1.4	0.1	0.0	0.0	0.4
中西部平均値	ｶｽﾐｶﾒ類	0.7	4.6	0.6	7.0	0.0	3.1
	その他加害種	0.1	7.4	2.0	3.0	0.0	3.1
北部平均値	ｶｽﾐｶﾒ類	1.7	－	46.8	0.3	0.0	15.7
	その他加害種	0.0	－	0.3	0.3	0.7	0.4
県全域平均値	ｶｽﾐｶﾒ類	1.1	2.4	6.4	3.8	0.7	3.3
	その他加害種	1.3	3.6	1.1	1.5	2.5	2.2

2 その他の病害虫の発生状況

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ		出穂前後の防除を徹底しましょう。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
セジロウンカ		通常、出穂期以降は水田から移出するため防除の必要はありません。

3 中国地方１か月予報

（広島地方気象台８月29日発表、８月31日から９月30日までの天候見通し）

● ６月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温のかなり高い状態が続いています。向こう１か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

●高気圧に覆われやすいため、向こう１か月の日照時間は多く、降水量は平年並か少ないでしょう。

●向こう１か月の平均気温は、高い確率80%です。

●週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率80%、3～4週目は高い確率70%です。

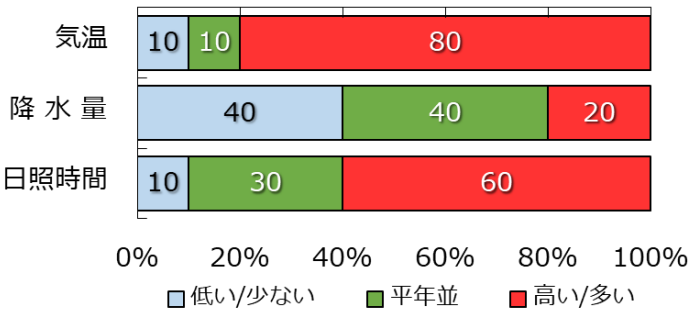


図1．向こう１か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率（%）

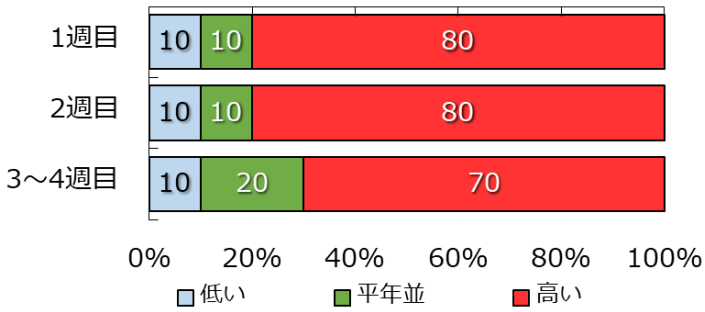


図2．向こう１か月の気温経過の各階級の確率（%）

4 農薬危害防止運動について

６月１日から８月３１日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。

用語説明について

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の５階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」　：　１番目（最多年）と同程度以上
「やや多」：　２～３番目と同程度
「並」　：　４～７番目と同程度
「やや少」：　８～９番目と同程度
「少」　：　10番目（最少年）と同程度以下

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報　検索

掲載アドレス↓
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら　→

ひろしま病害虫情報 メール配信登録はこちら ひろしま病害虫情報

お問合わせ先

広島県西部農業技術指導所　植物防疫チーム
〒739-0151　東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）